

就職特集

私の“シュウカツ”体験記

厳しい就職戦線を勝ち抜いた先輩たちは、どのような「思い」で活動をスタートさせたのだろうか。どんな苦労があったのだろうか。

6人の4年次生の体験記から「希望の内定獲得」のヒントを探し出してみよう。ただし、就職活動の方法は人それぞれ。体験記を参考に、『自分流』の活動方法を作り出してみよう。(企業名は内定先)



行動すれば自分が見える

経済学科、田中章喜ゼミ
 水戸章裕さん =小松製作所=

日本経済を根底から支えるメーカーで働きたいという熱意を胸に、「狭く深く」活動しました。きっかけは、海外への一人旅でした。3度、東アジアを巡ったことで日本の豊かさを実感し、また自分の国を誇らしく思ったのです。「『メイド・イン・ジャパン』を売り込みたい」、「『地球人』として世界で活躍したい」というあこがれが就職活動のスタートでした。

私は、他の学生と一緒にのことはつまらない、何か自分のポリシーを持って行動すれば勝負出来ると考えました。それが、「隠れた名店探し」です。会社の名前で判断するのではなく、世界シェアNo.1、オンリーワン製品を持つ、「技術屋」の会社を集中して訪問するうちに、私達の知らない、世界で活躍する素晴らしい企業を数多く知り、改めて世界に通用するメーカーで働きたいと強く思ったのです。

活動を通して、目標を持つ大切さを痛感しました。あこがれから始まり、それが目標になり、「ここで働きたい」という熱意に変わったからです。今、私は「隠れた名店探し」を貫き、周りに流されず、自己流の就職活動が出来たことに自信を持っています。

「何が自分に合った職業なのか？」という記事をよく目にします。そんなこと、一生かかっても分かるわけがない。過去は変えられない、未来は分からない。だからこそ今何をすべきか考え、ひたすら地道に行動するしかありません。行動すれば、自然に『自分』が見えてくるはずですよ。

「ES」で個性をアピール

法律学科、福長礼治ゼミ
 丸山剛司さん =東日本旅客鉄道=

面接や筆記試験には自信があったので、エントリーシート(以下、ES)を意識して就職活動していました。なぜならESは、個性をアピールする絶好の場であり、その後の選考を大きく左右するものだからです。まず、会社説明会に参加し、説明や配布資料等を参考に「自分がその企業で働く姿」のイメージから始めます。その中で思い浮かんだ言葉はメモし、不明な点は採用担当や社員の方から情報を入手します。それを志望動機や自己PRとしてまとめれば、オリジナルESが完成します。私のESは、友人からダメ出しの連発や笑いのネタにされたこともありましたが、下手な文章でもありのままの自分を表現するよう努めました。結果、面接では自然体でアピール出来、面接官の反応も良かったので大成功だったと思います。また、選考通過率は驚くほど高く、あこがれの東日本旅客鉄道から内定をいただくことが出来ました。

うわさ通り毎日2・3社回るのが当たり前の就職活動で、体力的な面よりも気疲れすることが多く、ストレスで過食気味になり、体重が5キロも増えました。しかし、そんな私を支えてくれたのは、「就活仲間」や、体調を気遣いながら応援してくれた母、そして親身になって指導して下さった就職課のスタッフの方々です。この

場を借りてお礼申し上げます。

就職活動は、自分を大きく成長させるチャンスです。他人の活動状況を気にせず、納得出来るまでやり抜き、自分らしさを出せれば必ず成功するでしょう！

「やりたいこと」見つけ就活へ

経営学科、櫻井通晴ゼミ
橋本佳映さん =イトーヨーカ堂=

就職を本格的に意識し始めたのは昨年10月頃からです。今だから言えることですが、実は筆記試験対策と自己分析は、ほとんどやっていません。筆記試験は前日・当日に苦手分野を参考書で見直す程度。その代わり新聞は毎日欠かさず読むように心がけていました。家庭教師のアルバイトも役に立ち、結局、筆記で落とされたのは1社だけでした。自己分析は夏休みに挫折してしまいました。その分、活動当初の履歴書やエントリーシート作成には時間をかけました。1枚の書類に2~3日をかけ、時間を見つけては神田校舎の就職課に通い、アドバイスを受けました。また常に小さな手帳を持ち歩き、思ったことなどをすぐにメモするようにしていたことは、振り返ると「小さな自己分析」だったのかもしれない。自己分析を必要としなかった理由の一つに、就活前に「やりたいこと」が見つかったということも挙げられます。きっかけは「販売」のアルバイトを経験したことです。就活中も続けていたアルバイトが、時には気分転換になり、筆記でも、面接でもアルバイト経験がとても役に立ちました。選考を受けた企業のほとんどが小売業です。多数の企業の面接で「緊張していないね」と言われ、販売のアルバイトでのエピソードも同業種ということで話を盛り上げる材料となりました。

背伸びせず、ありのままの自分で就活に臨んだことが第一志望企業内定という最高の結果をもたらしてくれたのだと思います。

「ありのままの自分」が武器

会計学科、松原成美ゼミ
生部みどりさん =野村證券=

4月21日、5人目の人事面接の最中に「今日を『就活』終戦記念日にしましょう！」と握手と共に内定をいただきました。緊迫した面接の雰囲気が一瞬にして和らぎ、同時に震えるほどのうれしさを感じたのを今でも覚えています。

私は証券業界志望というより、「野村證券」という会社にとっても興味を持っていました。セミナーで社員の方に直接お話を伺った際、優秀さと自信あふれる姿に惹かれたからです。「この方達と一緒に働きたい、この会社なら自分の力が試せるフィールドがある」。これが志望動機でした。本当に思っていたことですから、面接にも自然と力が入り、熱心にアピール出来たのだと思います。

面接では何か特別なことを言った訳ではなく、「ありのままの自分」を出すようにしていました。最初は、何かスゴイことを言わなければ落ちるような気がして気負っていました。

他社では、自分を表現しきれず、言葉に詰まってしまったこともありましたが、野村證券では、話の内容を含め、話し方や表情などから「私という人間」を見てくれているのだと感じました。完全な自己PRが出来た訳ではありませんが、面接の最後に「あなたはとても素直な人だと思います。だからお客様からも信頼される人になるでしょう」と言っていたことにとっても感謝しています。

後輩の皆さん、「ありのままの自分」こそが、最大の武器であることを忘れずに「就活」を乗り切ってください。

“いつでも前向きに”心がけ

心理学科、下斗米淳ゼミ
長谷富貴さん =テルモ=

人と人の対人関係における心の悩みに興味を持ち、社会心理学を学んでいます。そんな私が、一番心がけていたことは、常にプラス思考で前向きな考えをしていくことでした。もちろん不安になることや落ち込むこともたまにはありましたが、悩んでいるだけでは何も始まらないので、選考に落ちたら「ドンマイ！」と言えるくらいの余裕を作って、自分を追い込まないようにしました。そんな打たれ強さが内定に結びついた理由だと思っています。

3年次の10月に就職課の講座に参加したことからスタートした就職活動。約50社にエントリーし、実際に選

考に進んだ企業は20社ほどです。テルモは第一希望で、2月の個別説明会＋エントリーシートの提出から1カ月たって、4月初旬から5月にかけて1次・2次面接、筆記試験、最終面接を行い、5月初旬に内定の知らせが届きました。

テルモを就職先に決めた理由は、医療機器のトップメーカーであると共に、医療に関わることは、仕事自体が社会貢献につながることから「人のためになる仕事」が出来ると思ったからです。しかし活動の初期は、やりたいことが分からず、仕事内容の知識も少なかったので悩みました。そこで、新聞やニュースを見たり、積極的にセミナーに参加したりして情報を得るように心がけました。

就職活動は「自分」という人間を売り出して認めてもらう営業活動です。失敗したのは自分を否定されたわけではなく、伝え方が不十分だったと考えて、次に生かして行ってほしいと思います。

自己分析で志望動機に精度

ネットワーク情報学科、齋藤雄志プロジェクト
太鼓由果里さん =エヌ・ティ・ティ・データ=

学業成績自信なし、サークル無所属、大学時代やったことといえばアルバイトくらいで、それ以外の時間はすべて遊んでいた……これが就活スタート時の状況でした。特にアピールポイントのないこのような“履歴”では内定をいただくことはかなり困難だろうと思いましたが、それでも動かない訳にはいかないと、とにかく行動を始めました。とはいえ、自分を理解せず、うわべだけの言葉で企業側に“本当の私”を理解してもらえないわけがありません。

行き詰まっている時に友人からこんなことを言われました。「自己分析が足りない！ 一見何でもないように見えても誇れることが必ずある。自分の行動基準が見えてくれば必ずと志望動機も固まる」。そこで遅まきながらも“本格的”に自己分析を始めました。そして友人の言っていた本当の意味が分かりました。自己分析とは就活において面接をスムーズにするためではなく、将来の自分のためにあるのだと思います。過去の自分の行動理念を知り、今後やりたいこと、キャリアプランをしっかりと考えることで、就職後に「内定もらったから入社したけど自分のやりたい仕事じゃない」となることが減ると思います。またそのことによって志望動機の精度、熱意も増します。

自己分析を制した者が就活を制するといっても過言ではないと思います。とにかく自分の性質、やりたいことを見極め、人生の大きなポイントの一つとなる就職に悔いの残らないように頑張ってください。